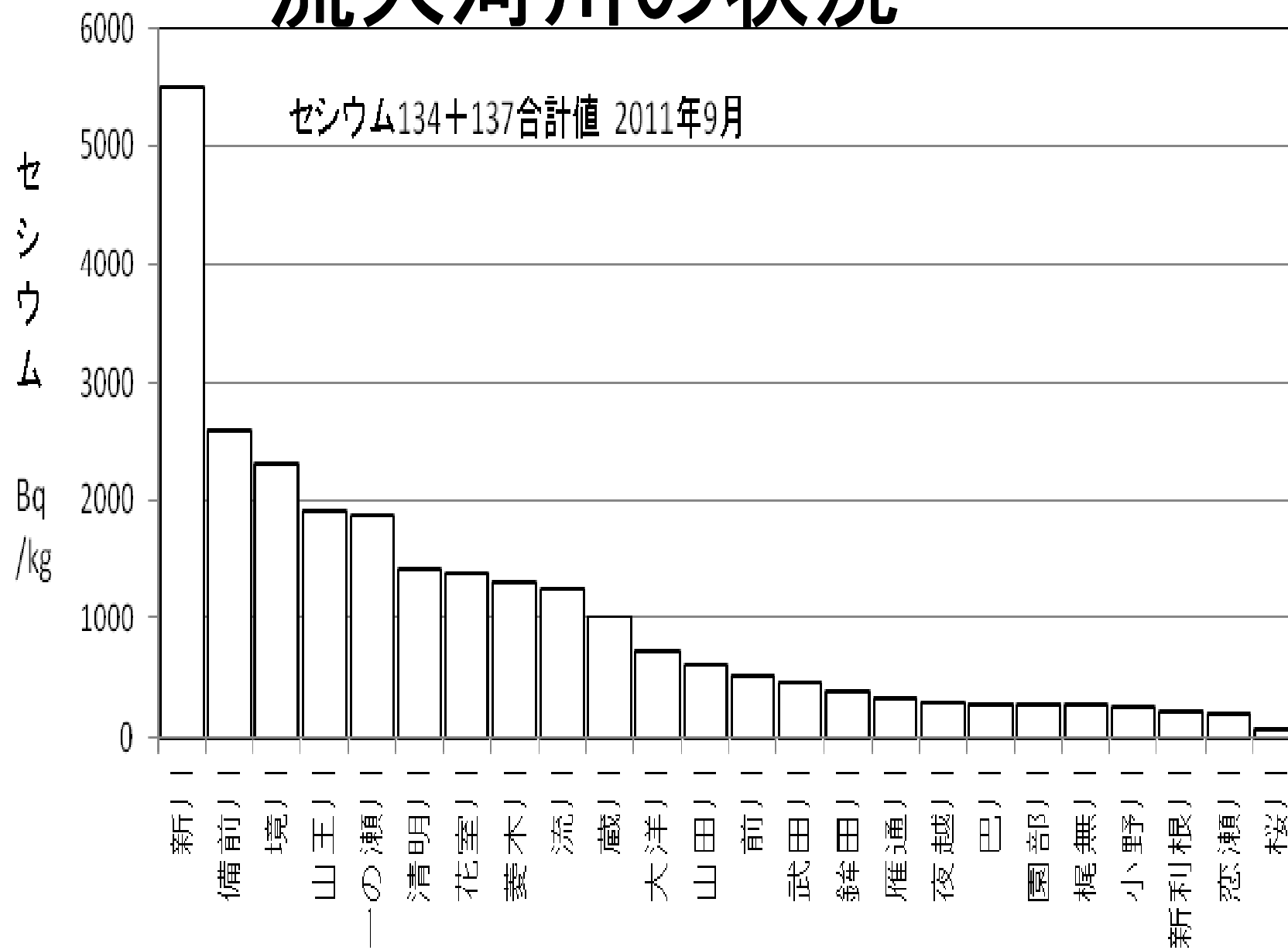
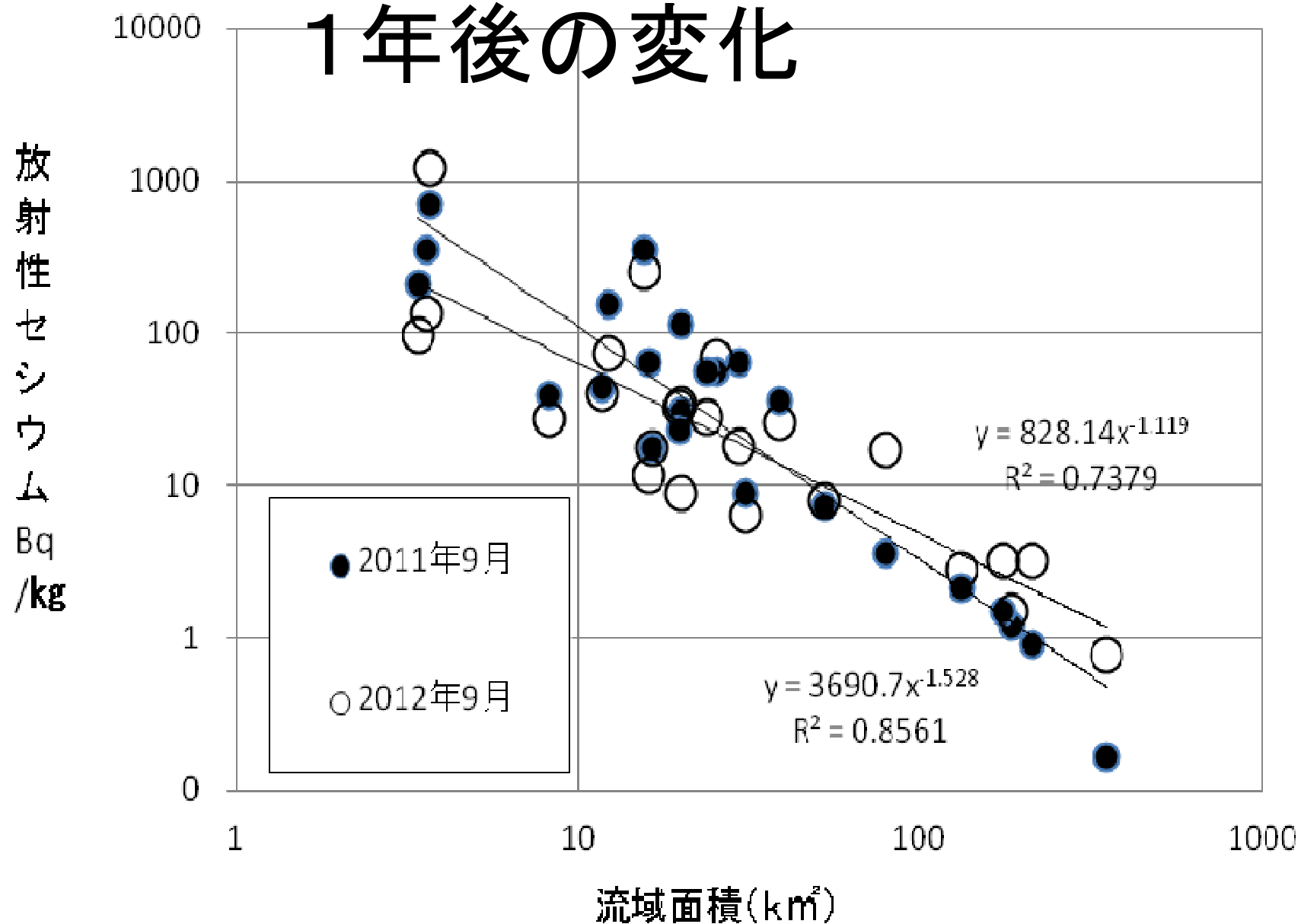


流入河川の状況



1年後の変化



放射性セシウム変動傾向

12河川平均値	2011.9	2012.2	2012.9
セシウム134	1	0.64	0.68
セシウム137	1	0.82	0.95
セシウム計	1	0.74	0.83
流域面積 × 濃度			
セシウム134	1	0.94	1.09
セシウム137	1	1.19	1.48
セシウム計	1	1.08	1.30

流入河川の総括

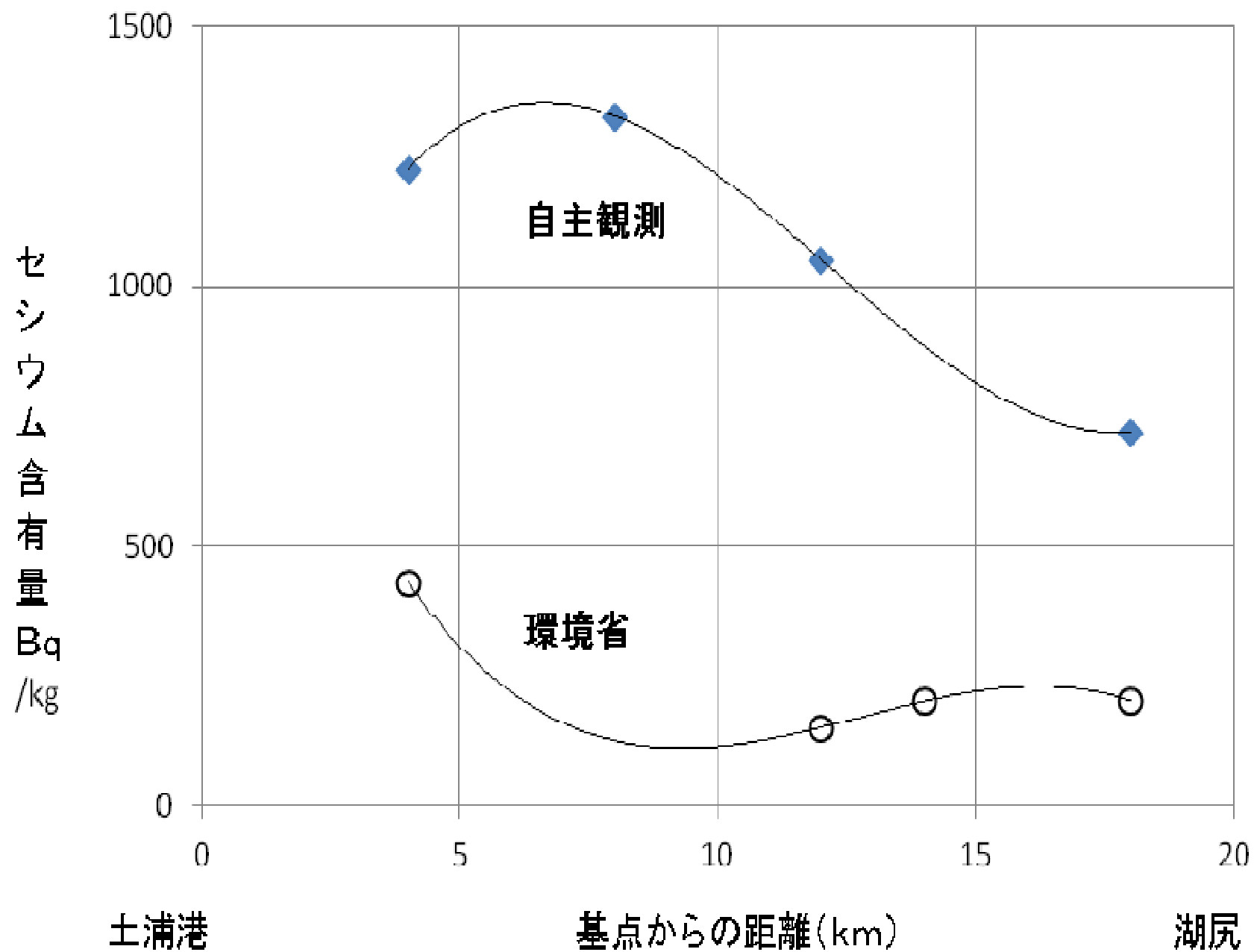
- 1 小河川（特に都市型河川）
流域⇒河川、河川⇒霞ヶ浦 が進行
- 2 大河川
霞ヶ浦への流出が継続し
河川内への蓄積も高まっている（とみられる）
- 3 $(\text{河川底泥濃度}) \times (\text{底泥濃度}) = 1.3\text{倍増}$

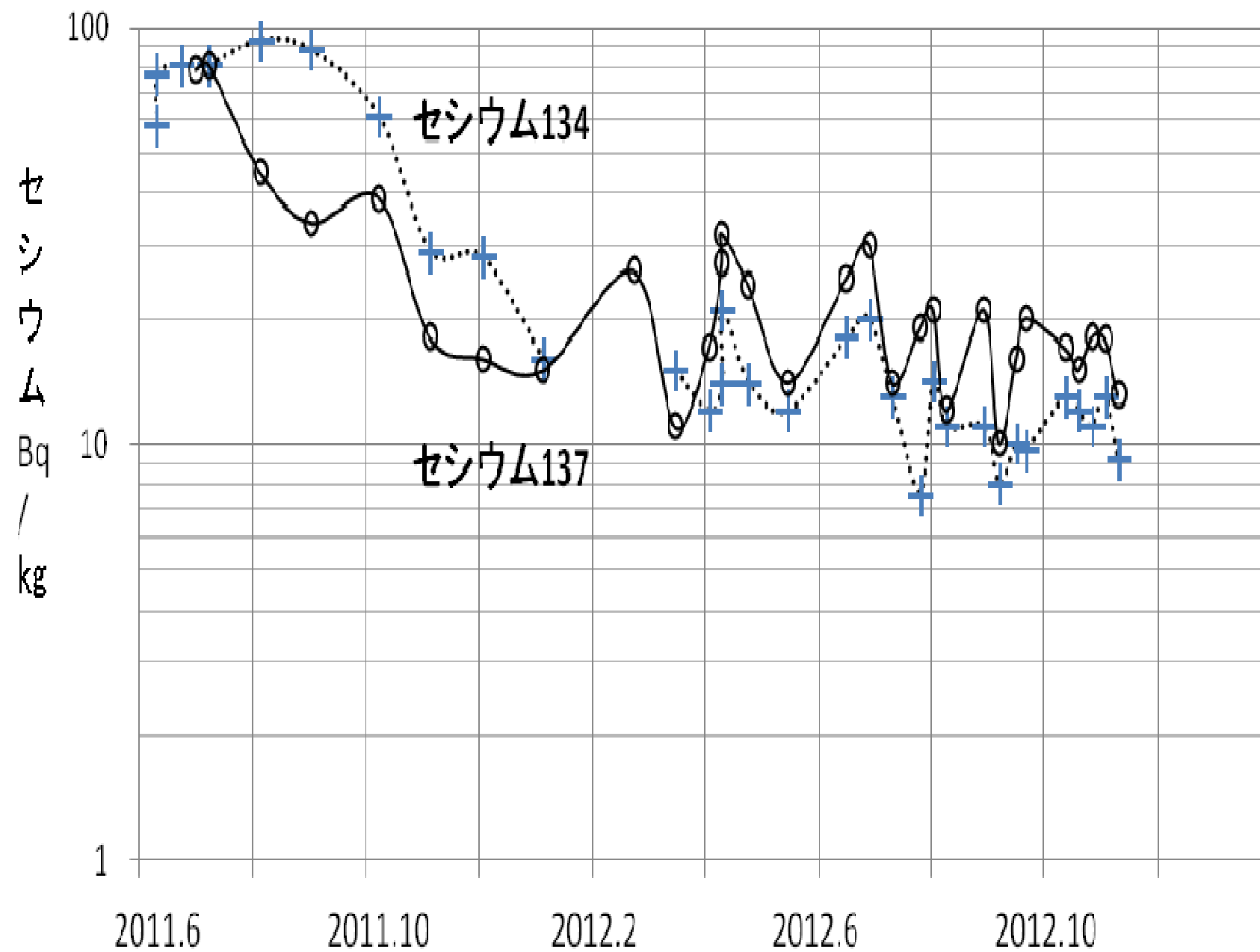
霞ヶ浦の底泥 (Bq/kg乾重)

年月	2011.9	2012.2	2012.6	2012.9
玉造沖	330	1300	228	201
掛馬	340	440	610	430
湖心	221	900	178	151
麻生沖	330	250	183	202
釜谷	130	1000	510	520
神宮橋	220	217	109	103
外浪逆	184	143	110	97
息栖	290	205	168	152

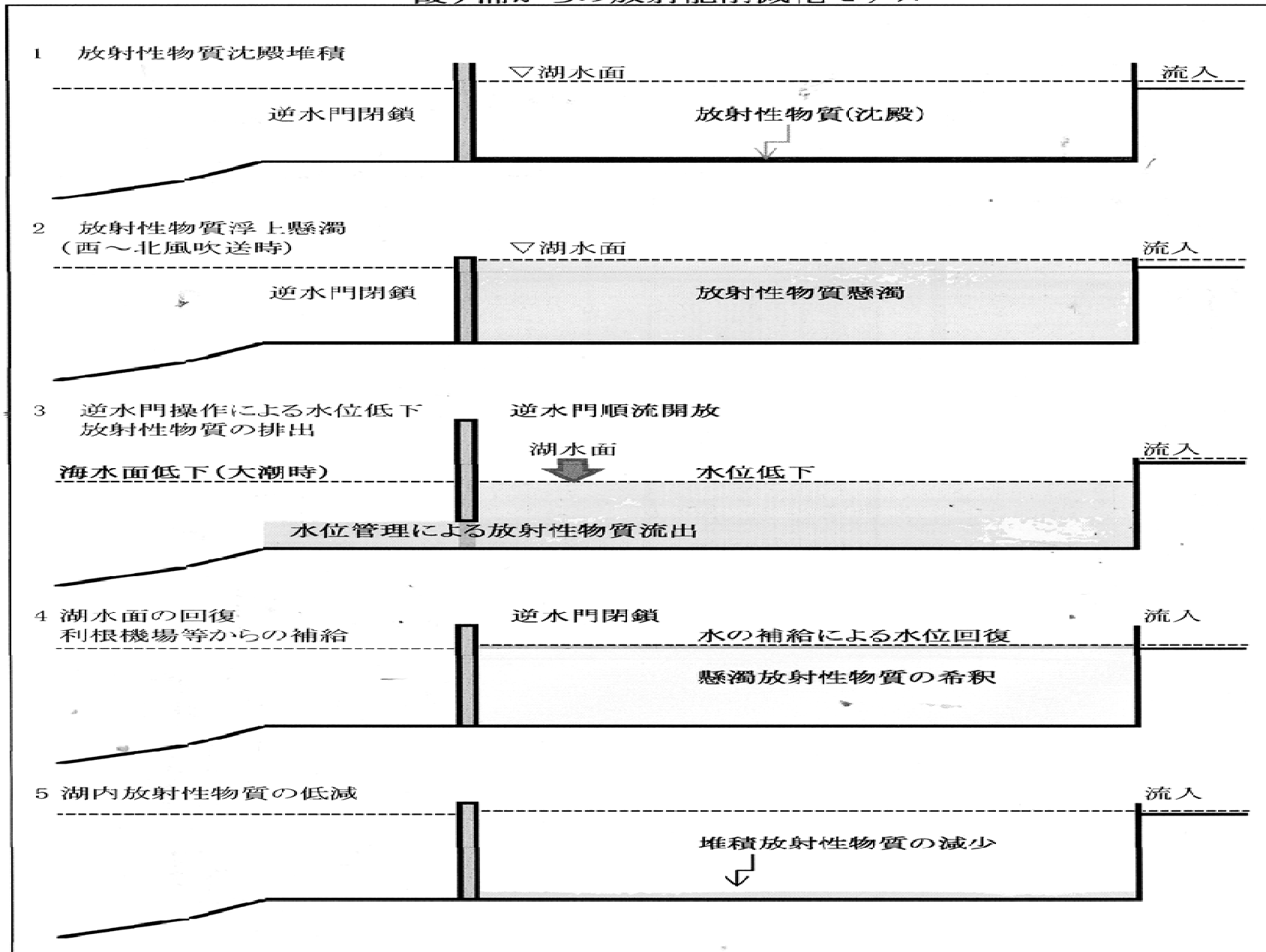
霞ヶ浦底泥（自主観測）

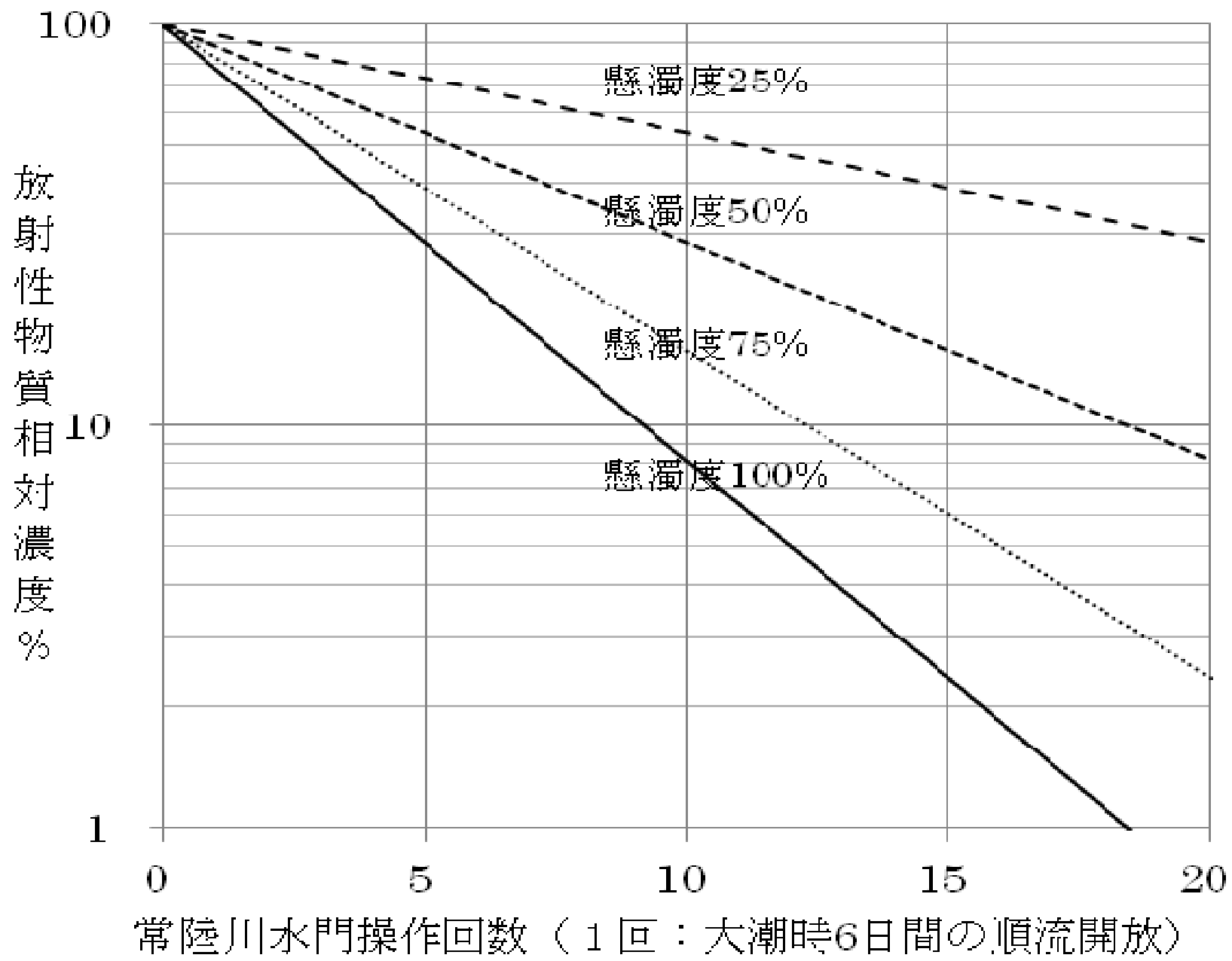
区分	自主観測			環境省観測		
	Cs計	Cs134	Cs137	合計	Cs134	Cs137
玉造沖	929	334	595	201	71	130
掛馬	1226	479	748	430	160	270
湖心	1051	420	631	151	53	98
麻生沖	721	264	457	202	72	130
釜谷	421	150	271	520	200	320





霞ヶ浦からの放射能削減化モデル





討論の結果

問題点

- 1 下流・海への放出は、許されな
- 2 自然に解決するから放置すればよい
- 3 湖・河川の底泥浚渫がよい

今後の対応：流域・湖の両視点から以下を推進

- 1 調査研究を行う
- 2 調査研究の公開
- 3 地域における合意形成

